

日経新聞読み方講座【初級編①】『マーケットの用語と意味を知ろう』

ファイナンシャル・プランナー 伊藤 亮太

日本経済新聞をどう読んでいいのかわからない。そうした声を学生さんや、セミナーに参加された皆様から頂戴しております。そのため、今回から、日本経済新聞の読み方講座をコラムを通じて展開していこうと思います。

まず初級編から。第一弾として、マーケットの用語と意味について解説していきたいと思います。日本経済新聞朝刊では、毎日 14 面～15 面あたりに【マーケット総合 1】が掲載されています。【マーケット総合 1】の一番右上部分には『マーケットシグナル』と記載のある部分があります。ここには、日本をはじめとした前日の株価の終値や外国為替、金利、商品（金や原油）価格などが掲載されています。この部分を見ることで、現状日本の株式相場が活況であるのかどうか、また為替の状況、アジア各国の株式市況などを把握することができます。初級編ですので、細かい部分は省いて、主な掲載内容とその用語の意味について解説します。

■マーケットシグナルの用語解説

マーケットシグナル部分〔東証 1 部と記載の部分〕を見ると、下記のような順で用語が記載されています。ここでは主な用語について解説します。

< 【マーケット総合 1】マーケットシグナルに記載されている主な用語 >

●日経平均株価

日経平均株価は、わが国の株式市場の代表的な株価指標の一つになります。日経 225 とも呼ばれ、東京証券取引所市場第 1 部に上場する銘柄のうち 225 銘柄をもとに計算された平均株価になります。日本経済新聞社が算出・公表をしていることからこの名称がついています。

日経平均株価は、日本の株式市場全体の動きを反映するともいわれていますが、注意点もあります。なぜかといえば、日経平均は 225 銘柄の株価の平均値を表しているため、株価の高い銘柄の影響を受けやすいという特徴があるためです。また、輸出企業が多いことから、海外の経済状況にも左右される側面が強い点も知っておきましょう。

ちなみにですが、過去日経平均株価が最も高かったのは 1989 年 12 月 29 日の 38,915 円。バブル後最安値は 2009 年 3 月 10 日の 7,054 円 98 銭。バブル当時は株価が高すぎたとはいえ、当時からみれば現状（2012 年 6 月末～7 月初旬）においても 4 分の 1 以下となっており、経済状況は芳しくありません。

●東証株価指数（TOPIX）

東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所市場第一部のすべての銘柄の株価をもとに算出される時価総額（2 ページ参照）指数になります。TOPIX は東京証券取引所が算出を行っています。発行済株式総数が多く、時価総額の大きい株式の影響を受けやすい点が特徴といえます。時価総額の大きい企業と

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

は、業種でいえば銀行や通信、不動産などが該当します。内需の代表ともいえる業種において時価総額が大きいといえ、そのため TOPIX は内需の影響を受けやすいともいえます。日経平均株価も TOPIX も数値が大きいほど日本経済は好調といえます。

ちなみに、TOPIX は 1968 年 1 月 4 日を 100 とした場合の時価総額の変化を表しており、2012 年 6 月 4 日には、約 29 年ぶりの安値を付け、バブル後最安値となる 695.51 (終値) となりました。

●売買代金

売買代金とは、約定株価 (売買された株価) × 売買成立株数で表されます。簡単にいえば、取引された金額の総額を表します。日本経済新聞のマーケットシグナル部分では、東京証券取引所市場第 1 部における売買代金を表しており、2012 年 6 月においては売買代金が 1 兆円を割れる日が続くなど市場は閑散としています。

なお、東京証券取引所市場第 1 部の売買代金が 2 兆円 (以前は 3 兆円) を上回ると売買が活況を呈しているとされます。

●売買高

売買高とは、株式等が売買された数量を表します。出来高とも言われます。一般に、東証 1 部の 1 日の売買高が 20 億株あると活況とされていますが、2012 年 6 月～7 月初旬の日々の売買高を見てみると 14～15 億株などといった状況にあり、活況を呈しているとはいえません。

●騰落レシオ (25 日移動平均)

騰落レシオとは、市場の過熱感を判断する際に利用される指標の一種になります。これは、ある一定期間の値上がり銘柄数の合計を値下がり銘柄数の合計で割ることで求められます。日本経済新聞の場合、25 日移動平均線と記載があるため、具体的には「東証一部における 25 日間の値上がり銘柄数の合計 ÷ 25 日間の値下がり銘柄数の合計 × 100」で求めることができます。

この値が 100% の時は中立の状態、120% を超えると買われすぎ、70% を割ると売られすぎと判断されます。例えば、2012 年 7 月 6 日における騰落レシオは 132.17% となっており、買われすぎている側面が見受けられ、一旦調整が起きる可能性があるとも判断できるわけです。

●時価総額

時価総額とは、一般的に上場企業の企業価値を表す指標ともいえます。発行済株式総数 × 株価で算出されます。日本経済新聞のマーケットシグナル部分における時価総額とは、東京証券取引所市場第 1 部全体の時価総額であり、1 部上場企業の価値を合計したものになります。1989 年 12 月のバブル時には東京証券取引所市場第 1 部の時価総額は最大で 590.9 兆円もあったわけですが、2012 年 7 月 6 日の終値で換算した時価総額は、7 月 7 日の日本経済新聞朝刊のマーケットシグナル部分を見ると 270.3 兆円となっています。22 年ほど前の半分にも満たない状況となっているのです。

ちなみに、2006 年末の時価総額は 538 兆円。たった 5 年足らずで、米国発の金融危機、欧州の債務危機を主な要因としながら、半減したといえます。

次回もシリーズものとして、日本経済新聞の読み方講座を展開していきます。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2012 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.